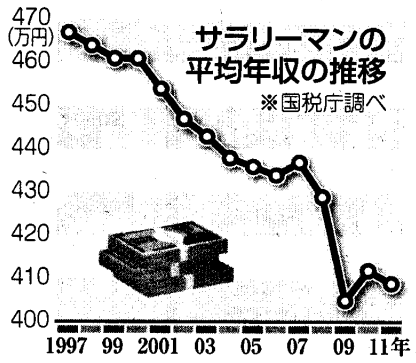
物価目標頼み不安

日銀2％決定

日銀が、安倍政権の強い求めで物価上昇率2％の達成を目標に掲げた。だが、収入が増えないまま物価だけ上がったら、暮らしはどうなるのか。二〇〇〇年代は好景気下でも賃金が下がり続けた先例がある。物価目標だけでは、国民の生活向上の公約は空手形に終わりかねない。（東京経済部・木村留美、経済部・今村節）



「物価が2％上がったとしても、売り上げは2％も伸びない。従業員の給料は上げられない」。旅館がひしめく愛知県内の温泉地で、老舗旅館を切り盛りする三十代の経営者男性はつぶやいた。

業界は顧客争奪戦が激しく、宿泊料金は下がり続けている。バブル期の平日は一泊一万五千～一万七千円が主流だったが、今は一万円を切る。売り上げはピーク時から半減し、「もうこれ以上料金は下げられない」。旅行会社の言い値で受注せざるを得ず、物価上昇が直接利益に結び付くとは思えない。

利益が増えたとしても、これまで我慢していた浴場・客室の改装やサービス向上に資金を回し、厳しい業界競争に生き残りたい。経営者は「勝ち残った最後に、ようやく人件費を考えると思う。人件費は一度上げると下げにくい」と語った。

大企業も賃上げには消極的だ。経団連は二〇一三年の春闘で、年齢や勤続年数に応じて賃金を上げる「定期昇給」は企業によっては延期や凍結の可能性があるとの立場だ。

みずほ証券の上野泰也チーフマーケットエコノミストは「経済のパイが拡大していく時は企業も賃上げができたが、今は小さなパイを労使が取り合う状態だ」と説明する。

国税庁の民間給与実態統計調査によると、民間サラリーマンの平均年収は一九九七年の四百六十七万円から、二〇一一年に四百九万円まで下がった。

北見式賃金研究所の北見昌朗所長は「ピークから年間の給与総額は約二十五兆円減った。これは東海四県（愛知、三重、岐阜、静岡）のサラリーマンの年収総額（約二十二兆円）に匹敵する給与が消えたことを意味する」と指摘する。

中国など新興国の工業化が進み、安い賃金で先進国と同じような製品を作ることができるようになった。この二〇年代半ばの好景気下でさえ、サラリーマンの平均年収は下落した。経済のグローバル化で各国企業との価格競争が激化する中、賃金水準が世界的に割高な日本での賃上げは難しい、というのが経営側の論理だ。

国内では九五年をピークに「働き手」（十五～六十四歳）の数が減っており、失業率も高くはない。本来なら労働市場で人手不足が生じ、賃金が上昇に転じる仕事が増えてもよさそうだ。しかし、企業は人口減少によって将来国内市場が縮小するのを先取りする形で、国内での設備投資を減らしている。それが経済の活性化を妨げ、賃上げが進まない状況に拍車を掛けている。

日銀の白川方明総裁は二十二日の会見で「国民から見て給料が増える、会社の収益が増える。そして物価が緩やかに上がっていく。バランスの取れた経済の改善を実現したい」と説明した。

ただ、投資に臆病になった企業がためたお金は二百二十五兆円に達する。この「眠ったお金」が動きだし経済活動が活発にならないと、賃金が上がっていく姿は描きづらい。

さらに懸念がある。もし賃金が上がらないまま物価が2％上昇し、政府が消費税率を一四年四月に現在の5％から8％に引き上げた場合、物価は今より全体で4％強上昇するに等しいとシティグループ証券の藤田勉副会長は試算する。藤田氏は「インフレ下で賃金が上がらなければ、個人消費にダメージを与える危険性がある」と警告している。

競争力重視 賃金後回し

企業の蓄え引き出せるか

核心

物価と成長率 予測引き上げ

14年度、日銀見直し

日銀は二十二日開いた金融政策決定会合で、昨年十月末に公表した「経済・物価情勢の展望」（展望リポート）を見直した。二〇一四年度は、消費税増税の影響を除いた消費者物価上昇率の予測を0・8％から0・9％に、実質経済成長率を0・6％から0・8％にそれぞれ引き上げた。

政府の緊急経済対策や成長戦略が、商品、サービス価格の押し上げにつながると判断。円安株高で企業業績も改善すると見込んだ。

一方、足元では海外経済減速の影響が大きいことから、一二年度は物価、成長率ともに予測を引き下げた。

日銀が展望する経済・物価情勢

実質GDP

2012年10月時点		13年1月（今回）
1.5	12年度	1.0
1.6	13年度	2.3
0.6	14年度	0.8

消費者物価指数

12年10月		13年1月
−0.1	12年度	−0.2
0.4	13年度	0.4
0.8	14年度	0.9

※前年度比%。14年度の消費者物価指数は消費税率引き上げの影響を除く

けさのことば　岡井 隆

大くさめして屋根雪の
ひる」という。
れば鼻は「魂の
然を支配する
瞬、「大くさめ
鼻息にうたれたみたいに
ちたのだというふうに
「大くさめ」したという
は一九四五年生まれの俳